

1. 主な研究内容について

研究内容は、「器質的脳損傷者・児の認知過程・心理過程についての検討」である。主に、①心理測定理論に基づいた心理検査やアンケートによるアプローチと、②脳磁図・近赤外線分光法を用いた神経生理学的アプローチにより、上記のテーマについて研究を行っている。最近の前者の研究としては、全国遷延性意識障害者・家族の会の協力の下に、当事者と家族の意思交換や家族のレスパイトに関する研究、およびNPO 大阪脳損傷者サポートセンター／若者と家族の会・大阪支部との共同で、遷延性意識障害者と高次脳機能障害者の生活実態とニーズに関する実態調査を行い、「親亡き後」に向けての検討を行っている。また、後者の研究としては、大阪大学との共同研究で、健常者を対象に、さまざまな認知課題時の脳活動を脳磁図・近赤外線分光法で計測することで、認知活動の時間および部位の推移を検討している。

実験室場面での知見と器質的脳損傷者・児の認知機能障害の関連性をもとに、彼らに対する介入方法の検討、さらには、家庭および地域で生活していく際の支援の方法へ発展させていくことが、最終的な目的である。

2. 主な共同研究先

全国遷延性意識障害者・家族の会、NPO 大阪脳損傷者サポートセンター／若者と家族の会・大阪支部、大阪大学大学院医学系研究科・医学部（脳神経外科学）

3. 今まで指導した学位論文名

なし

4. 主な論文

- ・ Ohnishi, H. & Harada, N.: Family's burden of people with prolonged disturbance of consciousness in Japan. *Asian Journal of Neurological Surgery*, in press.
- ・ Sugata, H., Hirata, M., Ohnishi, H., et al : Frequency-dependent oscillatory neural networks mediate imitation. *Scientific Reports*, 7: 45806 DOI10.1038, 2017.
- ・ 田中寛之, 植松正保, 永田優馬, 福原啓太, 内藤泰男, 大西久男, 西川 隆 : 重度認知症者のための認知機能検査 : Severe Cognitive Impairment Rating Scale 日本語版の臨床的有用性の検討, *老年精神医学雑誌*, 24, 1037-1046, 2013
- ・ Hisao Ohnishi & Zenjirou Nakatsuka : The validity for the Nakatsuka Screening Scales of Autistic Tendencies (NSSAT), In *Contemporary issues of brain, communication and education in psychology* (Yoshizaki K. & Ohnishi, H., Eds), 247-259, 2009, Union Service Press.
- ・ Hisao Ohnishi, et al. : Development of the Nakatsuka Screening Scales of Autistic Tendencies (NSSAT), Construction of scales to detect autistic symptoms in early infancy, *Journal of Rehabilitation and Health Sciences*, 4, 31-37, 2006

5. 現在の指導している大学院生数

M2 : 1名

6. どのような大学院生の受け入れを希望するか？

脳と行動（脳の機能障害と行動障害）に興味があり、そのメカニズムを明らかにしたい、さらに、その知見を対象者・児への治療・指導に応用していこうと考えている人を希望します。